

「なぜ車椅子なの？」

【はじめに】

利用者の方々の中で転倒により骨折をしてしまいデイケアを利用するケースは少なくない。骨折だけでなく、他の原因により痛い思いをしてしまった結果、恐怖心が出てしまう事がある。それにより思うように動けなくなって、活動量が減り、心配になる事がある。

今回は、転倒による骨折により痛みが強く、恐怖心が出てしまい動く事が出来ずにいた方の通所利用後から現在までの変化を紹介する。

【対象】※通所開始時

A様 女性 50歳代 要介護4 日常生活自立度：B1 認知度：自立

既往歴：胃がん（H12病変部切除・H24全摘）

気管支喘息・関節リウマチ・腰椎圧迫骨折・廃用症候群・左手首骨折

身体状況：食後に背部痛有、倦怠感が続いており、歩行時足が挙げづらい事がある。

当通所は、平成25年2月より利用開始となる。

【利用までの経緯】

転倒による骨折で、痛みにより恐怖心が過剰となってしまう。体調も安定せず、入退院を繰り返していた。当通所利用希望があったが、入院により一度延期となる。

【利用開始からの経緯】

1)利用開始直後は、車椅子を使用し、自宅では入浴する事が出来ず、排泄も着脱に介助が必要であった。体調も考慮され、週1回の利用であった。リハビリでは、出来る動作を少しずつ実施していき、それを反復するように訓練した。

2)1ヶ月程経過した頃に利用を週2回に増回。周囲の環境に慣れ始める。リハビリにて歩行器での訓練を行うが、歩行に対してとても慎重であった。リハビリにてピックアップウォーカー歩行が可能になると、利用時も車椅子と併用し、ピックアップウォーカーでの移動に変更する。始めは短時間の移動時から実施し、徐々に歩行する機会を延長していった。その後は自宅（送迎時）でも可能になる。この頃からリハビリをする意欲が高くなっていると感じる。

3)5ヶ月程になると洗体・着衣も全て自分で行うようになった。日常生活動作において、介助を要する場面が少なくなる。この頃から家族の介助にて自宅での入浴も可能となり日常生活に自信が付いていく。

4)9ヶ月目には、自宅で調理や洗いが可能となり、充実した生活が送れるようになってくる。目標は、主婦としての役割を再獲得する事。病気を発症する前の様に、自ら買い物をし、料理を作りたいと明確な目標が出来る。

5)1年近く経過し、自宅でも杖歩行に完全移行となった。ご家族からムーミンがプリントされた杖をプレゼントされ、とてもうれしそうであったのと同時に、ご家族の協力

も大きく影響していると感じた。

【考察】

病気を発症する前の状態に戻りたいと願う利用者がいる。しかし、現実には、目標が漠然としているだけ、目標＝すぐに出来るという思いが強い場合が多い。しかし、中には気持ちが様々な原因で塞ぎ込んでしまい、体を動かそうとする意欲までも持つ事が出来ない方もいる。

A様は骨折→痛み→恐怖心により体を動かそうとする意欲が低下していた。今回はリハビリで訓練した結果を日常生活（通所利用時）に少しずつ取り入れ、反復し実施していった。特に(2)の時期に徐々に実施していた事が、その後のA様のモチベーションに繋がっているのではないかと思う。

A様は「よくなりたい」という思いで、リハビリに真剣に取り組んだ。それが現在の状態になっている一番の要因である。しかし、恐怖心を一人で取り除いていく事は簡単な事ではない。今回はリハビリと連携し、A様の恐怖心を上手く取り除けた良いケースだったのではないかと思う。

【おわりに】

人間は“社会的役割”を持ち、日常生活を営んでいる。仕事をする、子供の面倒を見る、家事をする、町会の活動に参加する等それは多岐にわたる。私たちが介護の仕事に携わる中で、介護を必要とされている方の“社会的役割”が、生活に必要であると感じる事がある。要介護の状態から“社会的役割”を見つけ、目標を持つことの大切さ、それをサポートすることが今後も出来ればよいと思う。